

授業概要

「歌は世につれ、世は歌につれ」という言葉が示すように、音楽は「鳴り響く音そのもの」としてだけ存在するのではなく、人々の生活や社会と密接な関係を構築している。そのなかでも、高度に産業化されたポピュラー音楽は、流行現象としてその時々世相や社会情勢を反映しながら、人々の生活に寄り添い続けてきた。

本講義では、西洋音楽の導入を経た明治時代の「流行歌」から現在の「J-POP」まで、およそ160年間に至る日本のポピュラー音楽史を振り返りながら、ポピュラー音楽とメディアテクノロジー、産業、社会との関係について、通史的に講義する。そして、日本のポピュラー音楽が今後も発展を続けていくために必要なこととは何か、受講生と一緒に考察を深めていく。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	現在の日本のポピュラー音楽をめぐる諸問題
第 3 回	日本のポピュラー音楽史 (1) 明治時代～大正時代——西洋音楽の導入、流行歌の誕生
第 4 回	日本のポピュラー音楽史 (2) 昭和初期～第二次世界大戦末期——音楽産業の成立、戦争
第 5 回	日本のポピュラー音楽史 (3) 終戦～戦後復興期——「りんごの唄」、GHQ と将校クラブ
第 6 回	日本のポピュラー音楽史 (4) 1950 年代——高度経済成長期、望郷の歌、都市讃歌
第 7 回	日本のポピュラー音楽史 (5) 1960 年代前半——音楽産業の構造変化、渡辺プロ、テレビ
第 8 回	日本のポピュラー音楽史 (6) 1960 年代後半——フォーク、ロック、ビートルズ来日
第 9 回	日本のポピュラー音楽史 (7) 1970 年代——演歌、アイドル、ニューミュージック
第 10 回	日本のポピュラー音楽史 (8) 1980 年代前半——MTV、CD、シンセサイザー
第 11 回	日本のポピュラー音楽史 (9) 1980 年代後半——インディーズ、アイドル、レンタル店
第 12 回	日本のポピュラー音楽史 (10) 1990 年代前半——J-POP、タイアップ、ミリオンセラー
第 13 回	日本のポピュラー音楽史 (11) 1990 年代後半——インターネット、携帯電話、デジタル化
第 14 回	日本のポピュラー音楽史 (12) 2000 年代以降——「水のような音楽」、スマホ、サブスク
第 15 回	講義全体のまとめ
第 16 回	学期末レポート試験

到達目標

- ポピュラー音楽とメディアテクノロジー、産業、社会との関係を読み解くための基礎的な知識や視点を持ち、自身が普段から親しんでいるポピュラー音楽のルーツ（系譜）を理解することができる。
- ポピュラー音楽について、好き／嫌いという表層的な視点ではなく、分析的な視点を用いて客観的かつ、具体的に論じることができる。

履修上の注意

- 講義では映像や音源を数多く紹介するため、毎回の積極的かつ主体的な参加を期待します。
- 毎回の講義で紹介する内容について、親世代や祖父母世代の人々と積極的に対話することを期待します。

予習・復習

- 予習：次回の講義で扱うテーマについてインターネットや参考文献等を利用した自主学習を行う。関連する最新のニュースにも目を向けておくこと。
- 復習：レジュメや参考文献に目を通し、重要事項をノートに自分の言葉でまとめること。興味関心のある事例について考察する際、参照することができる自分だけのデータベース構築を目指してほしい。

評価方法

- 学期末レポート試験（70%）
- コメントカードおよび講義への参加態度（30%）

テキスト

- テキストは特に指定しない。
- 毎回の講義でレジュメとコメントカードを配布する。
- 毎回の講義で参考文献や参考資料を紹介する。